

富士通コンポーネントグループ 2015年度 環境報告書

富士通コンポーネントグループは、省エネルギーや再生可能エネルギー利用促進を支える部品とその応用製品の提供、および事業活動のグリーン化により環境と人に優しい社会の実現を目指すことを経営の重要事項の一つと位置づけ、環境経営に取り組んでいます。

1. ごあいさつ

2014年度は、第6期環境行動計画（2013年～2015年）の中間年度にあたり、「環境配慮製品の開発と提供」「社会との協働」「良き企業市民としての活動」「温室効果ガス排出量削減」「エネルギー効率の改善」「お取引先様のCO₂総排出量削減の推進」「廃棄物排出量の抑制」のすべての項目において年度目標を達成いたしました。また、当社グリーン製品のひとつであるAC/DC変換に伴う電力ロス削減に貢献する直流給電用コンセントユニット*1がその安全性と効率性を評価され、第59回溢澤賞*2を受賞しました。さらにリレーでは、電力の効率的な使用を可能にするスマートメーターや自動車の燃費向上に貢献する再生エネルギーシステム等に採用され、出荷が開始される年となりました。

当社グループは、これからも環境や生物多様性保全に対する企業の役割と責任を認識し、富士通グループの一員として「富士通グループ環境方針」および中期環境ビジョン「Green Policy 2020」に沿って、計画的で継続的な環境活動を展開してまいります。

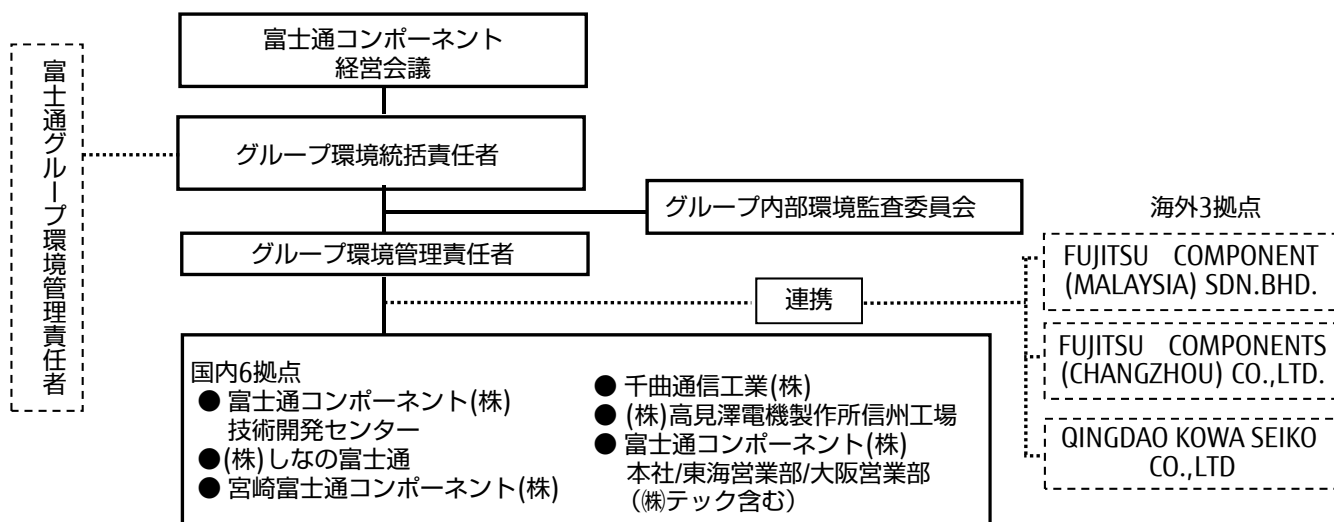


富士通コンポーネント株式会社
代表取締役社長 石坂宏一

*1：直流給電用コンセントユニットは、株式会社NTTファシリティーズ様との共同開発品です。

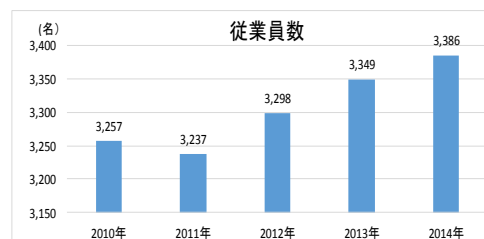
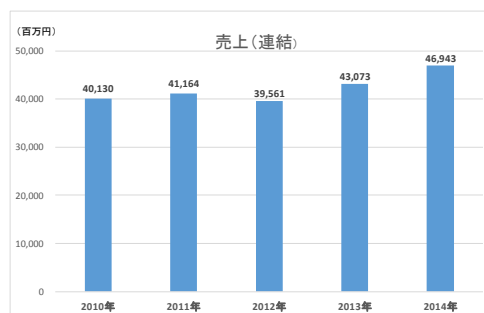
*2：溢澤賞は、故溢澤元治博士が昭和30年に文化功労者として表彰された栄誉を記念するため、昭和31年に設けられたものです。本賞は、広く電気保安に優れた業績を上げた個人、グループに贈られる、民間で唯一の電気保安関係の表彰です。

2. 富士通コンポーネントグループ環境活動の推進組織体制



3. 会社概要

■ 本社	富士通コンポーネント株式会社
所在地	〒140-8586 東京都品川区東品川4-12-4 品川シーサイドパークタワー
代表者	代表取締役社長 石坂 宏一
設立	2001年9月17日
事業内容	リレーやコネクタ等の接続部品およびタッチパネル、サーマルプリンタ等の入出力部品、無線モジュールならびにその他電気応用機器の製造・販売
資本金	6,764百万円（2015年3月31日現在）
売上高	46,943百万円（連結 2015年3月期）
決算期	3月31日
従業員数	3,386名（連結 2015年3月31日現在）
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第二部 コード番号 6719
グループ構成	当社含み国内6社（うち1社は販売会社）、海外8社（うち5社は販売会社）の14社にて構成。



4. 環境方針、環境行動計画

■ 富士通コンポーネントグループ環境方針

理念

当グループは、富士通グループの一員として、地球環境保全への取り組みを最重要課題であると認識し、「環境を大切に、より良い企業活動を行うこと」を理念とし、コンポーネント製品の開発、設計、製造、販売を行う企業であることを踏まえ、低炭素で豊かな社会の実現にむけて、ISO14001に準拠した環境マネジメントを推進する。

行動指針

- ・当グループの活動、製品、サービスに関わる環境側面を常に認識し、環境汚染の予防を推進すると共に環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。
- ・環境と経済の両立に貢献する製品を積極的に提供する。
- ・当グループの活動、製品、サービスに関わる環境関連法規、当グループが同意するその他の要求事項を遵守する。
- ・当グループ指定の有害物質を「入れない」「使わない」「付けない」「出さない」の考えで全廃を維持する。
- ・社員一人ひとり、それぞれの業務と市民としての立場を通じて、気候変動対策や生物多様性保全を始めとした環境改善に努め、更に広くこれらの社会への普及啓発を図る。

重点項目

当グループの活動、製品、サービスに関わる環境側面のうち、次の項目を環境マネジメント重点項目として取組む。

- ① 環境配慮製品（エネルギー効率の業界トップレベル達成と省資源化の向上）の開発と提供
- ② 社会との協働（環境課題等への取組み）と良き企業市民としての社会貢献活動支援
- ③ 温室効果ガス（GHG）排出量の削減
- ④ エネルギー消費効率の改善
- ⑤ お取引先のCO₂排出量削減の推進
- ⑥ 廃棄物排出量の抑制

附則

1. この環境方針は、文書化し、当グループの全領域、全社員に周知させるとともに、一般の人にも開示する。
2. この方針の取扱部門は、環境管理部とする。

2015年4月1日 グループ環境統括責任者

5. 第6期富士通コンポーネントグループ環境行動計画（2013年度～2015年度）

本行動計画は、富士通コンポーネントグループ環境方針、重点項目を実践していくための具体的な取組みを定めたもので、2015年度までの中期的な目的を計画したものであります。

【環境配慮製品の開発と提供】

環境に配慮した新規製品を2015年度末までに各製品群で1件以上開発する。

- ①エネルギー効率がトップレベルの製品（注1）
- ②資源効率を2011年度比10%以上向上した製品（注2）

【社会との協働】

生物多様性など社会・環境課題の解決に取り組む活動に対し、資源提供など（使用済切手やエコキャップ等の回収）の活動を推進する。

【良き企業市民としての活動】

社員が社会とともに取り組む社会貢献活動を拡大し継続する。

【温室効果ガス(GHG)排出量の削減】

エネルギー起源CO₂の総排出量を、2015年度末までに2000年度（22,777t-CO₂（注3））比27%（注4）以上削減する。

【エネルギー効率の改善】

事業所におけるエネルギー消費原単位（注5）を年平均1%以上改善する。

【お取引先のCO₂総排出量削減の推進】

すべての領域のお取引先にCO₂排出量削減の取組を拡大する。

【廃棄物排出量の抑制】

廃棄物発生量を2015年度末までに、2007年度から2011年度の平均(839t)以下に抑制する。

（注1）エネルギー効率においてトップランナー製品（世界初、業界初、世界最高、業界最高など）をはじめとした市場の上位25%以上に相当する基準を満たす製品。

（注2）製品の省資源化（製品の小型化、軽量化、薄型化、部品点数の削減）または資源循環性（廃棄量の削減、リサイクル性）の向上。

（注3）CO₂換算係数：電力の換算係数は、2002年度以降0.407トン・CO₂/MWh（固定）を使用。

（注4）新規生産ラインの増設等によるGHG排出量増加による目標値の見直し。

（注5）エネルギー消費原単位とは、売上高や生産数量などの単位当たりにおけるエネルギー消費量。

6. 富士通コンポーネントグループ環境目的目標と達成状況

項目	第6期環境行動計画（目的）	2014年度			2015年度
		目標	実績	評価	目標
社会への貢献	【環境配慮製品の開発と提供】 2015年度末までに各製品群で1件以上開発する ①エネルギー効率がトップレベルの製品 ②資源効率を2011年度比10%以上向上した製品	環境に配慮した製品を2製品群以上開発する。	5製品群で6件開発済	達成	環境に配慮した新製品を2件以上開発する
	【社会との協働】 生物多様性など社会・環境課題の解決に取り組む活動を推進する	各事業所において1件以上（計18件）を実施する	20件実施	達成	各事業所において1件以上（20件）実施する
	【良き企業市民としての活動】 社員が社会とともに取り組む社会貢献活動を拡大し継続する	各拠点の活動延べ時間合計で1,501時間以上実施する	2,053時間実施	達成	各事業所の活動延べ時間合計で1,658時間以上実施する
自らの事業活動	【温室効果ガス(GHG)排出量の削減】 エネルギー起源CO ₂ の総排出量を、2015年度末までに2000年度比27%以上削減する	エネルギー消費CO ₂ を16,421t-CO ₂ 以下とする	15,617t-CO ₂	達成	エネルギー起源CO ₂ を16,578t-CO ₂ 以下とする
	【エネルギー効率の改善】 事業所におけるエネルギー消費原単位を年平均1%以上改善する	対象3事業所の2012年度比改善率平均を1.99%以上とする	対象3事業所平均11.3%改善	達成	対象3事業所の2012年度比改善率平均を2.97%以上とする
	【お取引先のCO₂総排出量削減の推進】 すべてのお取引先にCO ₂ 排出量削減の取組みを拡大する	対象取引先223社の内204社（91.5%）以上に拡大する	対象取引先225社の内208社（92%）取組みを確認	達成	新規取引先を含め100%に拡大する
	【廃棄物排出量の抑制】 廃棄物発生量を2015年度末までに、2007年度から2011年度の平均(839t)以下に抑制する	廃棄物排出量を703.6t以下とする	643.5t	達成	廃棄物排出量を650t以下とする

7.環境への取り組み

■ 環境配慮製品の開発

富士通コンポーネントグループでは、省エネルギーや自然エネルギー利用製品に使用される部品や製品の開発を推進し、環境と経済の両立に貢献する製品を積極的に提供しております。

改善区分	製品群	開発製品
エネルギー効率	無線モジュール	<920MHz帯特定小電力無線モジュール> ・従来機種比2倍以上の通信距離を達成 ・製品分野業界トップレベルの省電力化
	KVM	<1Uリフトアップドロワー (8ポートKVMスイッチ内蔵モデル)> ・電力削減率5% ・LCDパネル改良における低消費電力化
	KVM	<KVMスイッチDVIモデル> ・電力削減率4% ・低消費電力化
資源効率	リレー	<EV/HEV/PHEV用リレー> ・重量削減率16%
	コネクタ	<高速伝送用コネクタ> ・重量削減率38%
	サーマルプリンタ	<小型パネルマウントユニット> ・重量削減率25%



特定小電力無線モジュール



小型パネルマウントユニット



EV/HEV/PHEV用リレー (FTR-E1リレー)

■ 製品含有化学物質管理

製品に使用する材料および副資材等の化学物質情報は取引先からの報告データで管理しており、法令やお客様ご要求基準に適合した製品の開発設計を行っております。また、欧州RoHS指令・REACH規則等の関連法令改正から追加指定された化学物質については、速やかに含有調査を行い当社製品に対する適合検証を図っております。

■ グリーン調達

材料および副資材等の全ては「グリーン調達合意書」や「環境共通購入仕様書」に従った購入としており、富士通株式会社ならびに富士通コンポーネントグループの指定する有害物質が非含有であることの保証書やAISデータ^(注1)等で検証されたものを調達しております。また、サプライチェーンを通じた環境負荷低減活動として、取引先には環境マネジメントシステムの構築と地球温暖化防止・生物多様性保全の活動取り組みをお願いしております。

〔紛争鉱物問題への対応〕

当社製品におけるDRC紛争鉱物^(注2)の使用を明確化し、お客様のご要求に信頼できる情報を提供するため、OECDのガイダンスやCFSIのテンプレート^(注3)等に沿った調査対応を推進しております。

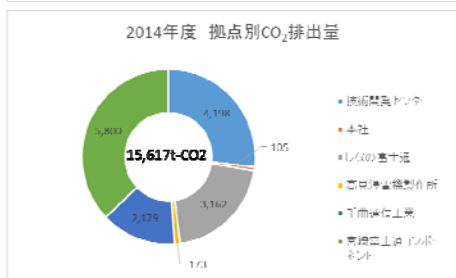
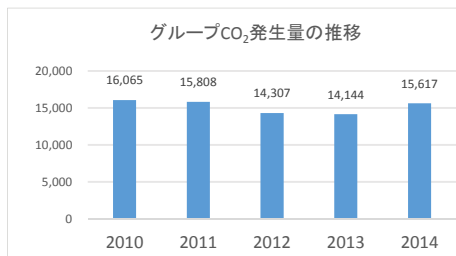
(注1) JAMP (Joint Article Management Promotion-consortium) が推奨する製品含有化学物質情報を伝達するための基本的情報伝達シート (Article Information Sheet)

(注2) DRC諸国を意味するものでコンゴ民主共和国 (Democratic Republic of the Congo) およびその周辺国で採掘される鉱物
スズ、タンタル、タングステン、金の4種類

(注3) OECD (経済協力開発機構) のデューデリジェンスガイダンス、CFSI (Conflict-Free Sourcing Initiative) の定型報告書

■ 地球温暖化防止

各事業所の省エネルギー活動は、新たな施策発掘の他に従来からの運用方法に検討を加え、観点を変えて電気および重油の使用量削減を実施しております。実績として、特に、冷却のためのエネルギーと加温のエネルギーを熱交換器を介して置換し、電気・重油の双方のエネルギー削減を達成しております。また、多数台を有するコンプレッサー設備にインバーター機と台数制御装置を組み合わせ、配管をループ連結することで常に最少最適稼働を保つ仕組みを構築し運用しております。



インバータ付コンプレッサーと運転台数制御装置の組み合わせによる省エネルギー活動 (しなの富士通)



照明のLED化 (しなの富士通)



グリーンカーテン (宮崎富士通コンポーネント 本社工場)

■ エネルギー効率の改善

活動単位あたりのエネルギー使用量を表すエネルギー原単位管理を富士通コンポーネント(株)技術開発センター、(株)しなの富士通、宮崎富士通コンポーネント(株)の第二種エネルギー管理指定工場(注)で実施しております。

2014年度は富士通コンポーネント(株)技術開発センターおよび宮崎富士通コンポーネント(株)において、新規生産ラインの導入に伴う立上げ・調整ロスが発生し原単位が悪化させる結果となりましたが、2015年度は新規生産ライン稼働と夜間時間帯を含む連続操業を計画しており、原単位は大幅に改善される見込みです。

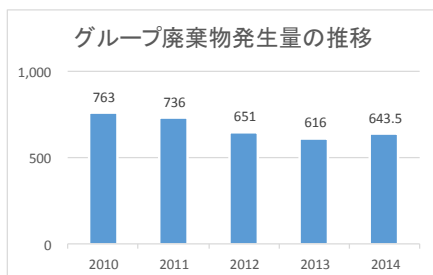
(注) エネルギー使用量が原油換算で1,500kl以上3,000kl未満の事業所が法令で第二種エネルギー管理指定工場に指定されます。

拠点名	原単位の根拠	2012年度 (基準年)	2013年度 実績	2014年度 実績	基準年度比	代表的な削減事例
富士通コンポーネント(株) 技術開発センター	エネルギー使用量(kl) / 売上高(百万円)	0.7710	0.5689	0.6002	△22%	・貯水の流用によるコンプレッサーからの熱交換による冷却用電力削減 ・モジュールチラー冷却水の設定温度見直しによる負荷軽減
(株)しなの富士通	エネルギー使用量(kl) / 売上高(千万円)	1.633	1.574	1.432	△12%	・インバーター付コンプレッサーと台数制御運転による電力削減 ・工場休業時の配電盤ブレーカー切断による待機電力削減
宮崎富士通コンポーネント(株)	エネルギー使用量(kl) / 生産数量(千個)	0.0158	0.01437	0.0146	△7%	・圧縮エアアの漏れ対策によるコンプレッサー電力削減 ・空調機の更新に伴う省エネタイプの導入

■ 産業廃棄物削減

富士通コンポーネントグループでは、資源有効利用を目的に分別種類、売却先、収集ルート等の共有化を図るため、全事業所間で情報交換を行い、廃棄物削減、処分費用の圧縮に努めております。

また、ガラス端材やめっき汚泥等有効利用が困難な廃棄物への対応に課題がありますが、継続して調査・研究を重ねております。



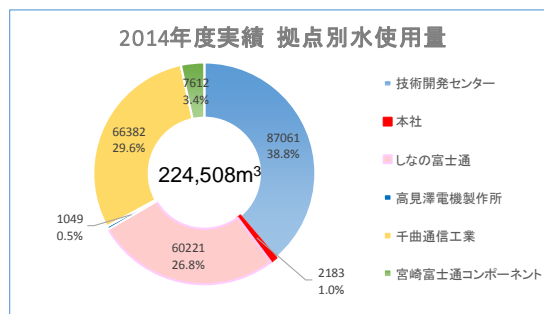
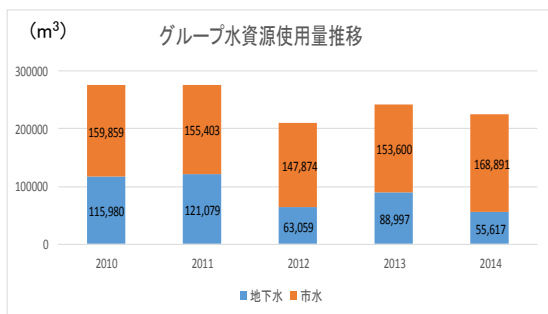
クリーンルームで使用済みのニトリル手袋の再資源化 (富士通コンポーネント 技術開発センター)



シンナー廃液の再生利用化 (しなの富士通)

■ 水使用量

製造工程に純水を使用する富士通コンポーネント(株)技術開発センターでは、従来排水処理としていた一部の水洗水を再利用する方法に変更。また土曜日、日曜日の使用量に応じて純水製造ラインのバルブ切り替えによりロスを最小限に抑え、2013年度より約7%(18,000m³)の削減を実現しました。



■ 「社会との協働」「良き企業市民としての活動」の社会貢献活動の状況

富士通コンポーネントグループ各社は、地域行政と連携を図りつつ、社員のみならず家族も参加した社会貢献活動を行っております。

富士通コンポーネント技術開発センター (長野県須坂市) : 森林間伐作業と須坂市町並みクリーン作戦活動



しなの富士通 (長野県飯山市) : 外来種駆除 (ハルザキヤマガラシ・セイタカアワダチソウ)



千曲通信・高見澤電機 (長野県佐久市) : 周辺道路清掃活動



宮崎富士通コンポーネント (宮崎県日南市) : 風田浜のウミガメ産卵場所清掃活動

8. 環境にかかわる法規制の遵守状況

■ 環境測定項目と測定結果

2014年度測定値情報										
	法令	項目	単位	法規制値	県条例	自主基準値	測定結果			
富士通コンポーネント技開センター	大気汚染防止法	ばいじん濃度	g/Nm ³	0.3	0.3	≦0.1	0.005			
		硫酸酸化物排出量	Nm ³ /h	-	-	≦2.5	0.043			
		窒素酸化物	ppm	260	180	≦150	56			
	下水道法	水素イオン濃度(pH)			5.0~9.0	5.0~9.0	5.1~8.9	7.2~7.4		
		生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/l		600	600	≦300	92		
		浮遊物質(SS)	mg/l		600	600	≦300	7		
		n-ヘキサン抽出物(鉱油)	mg/l		5	5	≦4	1.1		
	騒音規制法	朝・夕	dB		55-65	60	≦55	49.5		
		昼	dB		60-65	60	≦55	49.6		
		夜間	dB		50-55	50	≦47.5	46.9		
振動規制法	昼間	dB		65-70	65	≦60	36.4			
	夜間	dB		60-65	60	≦55	35.8			
しなの富士通	大気汚染防止法	ばいじん濃度	g/Nm ³	-	-	≦0.18	0.005			
		窒素酸化物	ppm	-	-	≦108	65			
		水素イオン濃度(pH)			5.0~9.0	-	5.5~8.5	8.0		
	下水道法	生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/l		600	-	≦550	84		
		n-ヘキサン抽出物(動植物油)	mg/l		30	-	≦15	8.4		
		朝・夕	dB		-	-	≦70	56.9		
	騒音規制法	昼	dB		-	-	≦70	58.4		
		夜間	dB		-	-	≦65	57.1		
		昼間	dB		-	-	≦70	41		
	振動規制法	夜間	dB		-	-	≦65	36		
夜間		dB		-	-	≦65	36			
宮崎富士通コンポーネント	水質汚濁防止法(日高嶋工場)	水素イオン濃度(pH)	-	-	-	6.0~8.4	6.2~7.8			
		生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/l		-	≦108	4.9			
		n-ヘキサン抽出物(鉱油類)	mg/l		5	-	≦4.5	0.5		
	浄化槽法(本社工場)	水素イオン濃度(pH)	-	-	-	-	4.0~8.4	6.0~7.4		
		生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/l		-	-	≦23	17		
	騒音規制法(鉄肥工場)	朝・夕	dB		50	-	≦49	48.6		
		昼間	dB		55	-	≦53.9	48.9		
		夜間	dB		45	-	≦44.1	43.8		
	千曲通信工業	水質汚濁防止法	水素イオン濃度(pH)	-	5.8~8.6	-	6.0~8.4	7.1~7.5		
生物化学的酸素要求量(BOD)			mg/l		160	-	≦108	0.9		
テトラクロロチレン			mg/l		0.1	-	≦0.09	0.001未満		
トリクロロエチレン			mg/l		0.3	-	≦0.27	0.001未満		
シス-1,2-ジクロロエチレン			mg/l		0.4	-	≦0.36	0.01未満		
高見澤電機製作所信州工場	下水道法	水素イオン濃度(pH)		5.0~9.0	-	6.0~8.9	8.4			
		生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/l		600	-	≦300	5.4		
		n-ヘキサン抽出物(鉱油類)	mg/l		5	-	≦4.5	1.0未満		
	騒音規制法	朝・夕	dB		-	-	≦70	49		
		昼	dB		-	-	≦70	50		
		夜間	dB		-	-	≦65	44		
	振動規制法	昼間	dB		-	-	≦70	36		
		夜間	dB		-	-	≦65	35		
	法令	項目	単位	法規制値	地下環境基準	※ 敷地内最大濃度	敷地境界線観測井戸最大濃度			
							テトラクロロチレン	mg/l	0.01	2.3
トリクロロエチレン							mg/l	0.03	0.3	0.005未満
シス-1,2-ジクロロエチレン							mg/l	0.04	1.1	0.005未満

※地下水汚染の状況

(株)高見澤電機製作所自主調査の結果判明した塩素系有機化合物による地下水汚染について、揚水曝気処理及び減圧吸引装置による浄化作業を継続して実施しており、敷地外への流出の無いことと近隣住民からの苦情、問合せが無いことを確認しております。また、浄化促進方法の研究や最新技術のシミュレーションを重ねるなど、環境汚染のリスク回避に向けた取り組みを推進しております。

お問い合わせ先

■ お問い合わせ先

富士通コンポーネント株式会社 技術開発センター
品質保証統括部環境管理部

住所：〒381-0076 長野県須坂市大字須坂1174
Tel : 026-248-7975
Fax : 026-248-2846

■ 各拠点のお問い合わせ先

拠点	お問い合わせ先
富士通コンポーネント株式会社 技術開発センター	総務課 Tel 026-248-5566 Fax 026-248-2543
株式会社しなの富士通	総務部 Tel 0269-62-1155 Fax 0269-62-1232
宮崎富士通コンポーネント株式会社	総務部 Tel 0987-22-5211 Fax 0987-22-5353
千曲通信工業株式会社	総務部 Tel 0267-64-1230 Fax 0267-64-1227
株式会社高見澤電機製作所 信州工場	総務課 Tel 0267-64-1200 Fax 0267-64-1210
富士通コンポーネント株式会社 本社	総務課 Tel 03-3450-1601 Fax 03-3474-2370

本報告書は、ISO14001:2004にかかわる当社環境マネジメントが統括する日本国内の組織に関するものです。

Bluetooth®ワードマークおよびロゴはBluetooth SIG Inc.が所有する登録商標であり、当社はこれらの商標を使用する許可を受けています。

お問い合わせ先

富士通コンポーネント株式会社

技術開発センター
品質保証統括部環境管理部
TEL : 026-248-7975
FAX : 026-248-2846

発行責任部署 技術開発センター
品質保証統括部環境管理部
編集責任部署 マーケティング統括部マーコム部
発行年月日 2015年10月13日
記載事項対象期間 2014年4月1日～2015年3月31日
(2015年度計画含む)
報告URL : <http://www.fujitsu.com/jp/fcl/about/environment/e-report/>

